

## 主要科目の特徴

### 【短期大学部】

| 主要科目         | 特徴  |
|--------------|---|
| 子ども栄養学       | <p>子どもの健全な育成に必要な大切さを知り、子ども栄養の特徴と重要性を学ぶ。小児期、学齢期、思春期までの発育の過程と栄養素の生理的意義、適切な食事の関係を知らると共に提供出来るようにする。</p> <p>子どもを取り巻く食生活環境と問題点を見つけ、解決への思考・方策が実行出来る</p>  |
| 小児事故         | <p>乳幼児の不慮の事故死の予防・対策は小児保健分野において重要な課題の一つです。社会や保護者からは、量的な充足と同時に子どもの健康で安全な生活を保障する質の高い保育が求められています。本講義では、講義とグループ学習を通して小児の成長・発達の特徴に応じたリスクマネジメントについて学び、リスクセンスを磨きます。</p>   |
| 子ども医療(健康)    | <p>通級による指導を利用する発達障害のある児童生徒数は、2013年の報告書では全体の約4割を占めるとされています。2007年の学校教育法の改正に伴い、学校教育に特別支援教育が導入され、子ども個々に対して適切な教育と支援を実施するよう求められています。同時に、幼児教育や保育の現場では、早期療育の重要性から早期発見と早期支援が期待されています。本講では、幼児教育や保育の現場で遭遇しやすい発達障害のある子への支援について、発達障害の特性から考えます。実際の支援方法は、個々の子どもによって異なります。実際に難しい事例に遭遇したとき、本講での学びが皆さんの一助となれることを願います。</p> |
| 子どもの健康障害     | <p>子どもの生活習慣病、こころの問題、育児不安、児童虐待が社会問題となっています。これら子どもを取り巻く健康問題の現状を踏まえ、子どもによくみられる症状のアセスメントと対処、各発達段階によくみられる健康問題と対処について学習します。</p>   |
| チャイルドスポーツ    | <p>チャイルドスポーツの目標の理解、基礎的な知識・スキルの理解などを求めている。その上で、子どもの段階においてどのようなスポーツを組み立てるのかを検討する。チャイルドスポーツが目指す目標を理解し、チャイルドスポーツをつくるために必要な構成力と教材発力などを身につける。</p>   |
| ウェイト&エアロビック・ | <p>筋力トレーニング、ストレッチやエアロビック・エクササイズ等を組み合わせたフィットネスとコンディショニングの方法を学習し、専門的指導者としての基本的資質を養成する。</p>  |



| 主要科目        | 特徴  |
|-------------|---|
| レクリエーション論   | 様々な角度からレクリエーションの定義や基本的な考えを理解するとともにレクリエーション支援の意味を理解し、レクリエーション支援者としての姿勢や立場、活動領域について学習する。さらに現代の社会問題に即したテーマからレクリエーション主体者のニーズを見つけ出し、根拠ある指導や支援の方向性を示しながら、身近な人々を指導（支援）する活動・事業を考える  |
| 野外活動        | 野外活動のうち「冒険教育」に焦点をあてて授業を行う。冒険活動の一つである「プロジェクト・アドベンチャー」を体験し、プログラムの主旨、留意点、一般への応用の可能性を探る。  |
| ソルフェージュ     | 保育者として音楽表現における演奏に必要な、音楽基礎能力（読譜・視唱・音楽理論）やピアノ演奏技術を定着させる。  |
| リトミック       | リトミックは、聴覚を使うことのみにより感じることでできる、抽象芸術である音楽を、全身体を使い、体験を通して具体的に学ぶものである。この時間は、リトミックを体験し、自身の能力向上を目指す。<br>音楽の三要素の中で、もっとも強い影響力を持つリズムとそれに伴うニュアンス、及びより深く音楽を感じ取り、聞き取るためのソルフェージュカの体得を目指す。 |
| ミュージカル      | ミュージカルを体験することによって、保育者としての表現力を育み、子どもの音楽表現を理解しサポートする力を養う。<br>ミュージカル上演まで、この授業を通して、歌と演奏、ダンスを仕上げていく。   |
| コンピューター音楽演習 | 音楽教育における楽譜制作と表現において、コンピューター等の機器やインターネット等の情報網というメディアが、どのように利用されているか、どのように音楽教育に影響を与えているか、また今後どのような展開を可能にしているかを、音楽や楽譜を制作する演習を通じて探る。  |
| 子ども心理学実験    | 児童を対象に実施可能な観察、実験、心理検査などを実践的に学ぶ。   |



| 主要科目     | 特徴   |
|----------|--|
| カウンセリング  | <p>「受容」「傾聴」「共感」のカウンセリング・マインドを理解することは、乳幼児の保育や幼児教育の現場において、子どもだけでなく保護者や地域の方々との関係づくりにも大切な要素です。カウンセリングの基礎知識を習得し、ロールプレイや記述分析などの技法に習熟することで、子どもとかかわる心や他者の気持ちを想像する力を培います。</p>                             |
| 子ども人格心理学 | <p>発達心理学の基礎的事項について講義する。特に、人格・対人関係の発達に焦点化する。授業内アクティビティ、ディベート、臨床心理士による子どもの発達と家族の問題に関する講義を含める。発達の基礎的事項を修得するとともに、特に社会化過程や自我発達を理解する。また外在化・内在化問題行動の発生の発達精神病理を理解し、子どもの発達支援の方法を考える。</p>                  |
| 子ども臨床心理学 | <p>1.カウンセラーとは異なる保育者の行う教育相談の役割と特徴を理解し、教育相談の方法と基礎になる理論を学ぶ。<br/> 2.幼児期の子どもとその家庭に関する臨床的問題の実際、及び現代の<br/> 教育現場における諸問題を理解する。<br/> 3.多様な保護者やさまざまな問題を抱える子どもとのつながり方を理解し、内外の資源と連携しながら支援するための知識と技法を習得する。</p> |

